

学校教育目標	自ら学ぶ意欲にあふれた児童の育成 — かしこく やさしく しなやかに —	経営理念	【ミッション】「知・徳・体」のバランスの取れた児童の育成 【ビジョン】小規模校の良さを生かし、児童の力を最大限に伸ばす学校 ○児童の夢と希望を育む学校 ○あいさつの声が響く学校 ○教育環境の整った学校 ○保護者や地域と連携する学校
--------	---	------	--

評価計画							自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	○他者の意見を傾聴し、進んで考えることができる。 ○双方向の対話を身につけ、思考を深める。	○進んで考えることができる。 ○共に学び合うことができる。	① 進んで考えることができる。 ② 聞き方・話し方スキルの定着 ③ 各教科における音読 ④ 上小授業モデルの徹底 ⑤ 意図的な習熟問題による評価 ⑥ 目的を持たせた振り返り	★単元末テストの予想平均点を超える児童	80%	68.5%	70%	87.5%	2	・単元末テストの予想平均得点を超える児童は、国語科では68.5%、算数科では、71.3%と目標を下回ったが、算数科は中間報告よりも向上した。 ・継続して、土台となる基礎的・基本的な知識や技能、読み取りの力を身に付けさせていく。	B	今後も学力をつけて欲しい。	児童実態をしっかり分析して目標値を設定する必要がある。
					★研究の視点に係る児童アンケート	85%	81.4%	83.80%	98.58%	2	・研究の視点に係るアンケートの肯定的評価が83.8%と目標をわずかに下回った。「進んで考える」項目は88.2%だったが、「考えを伝えよう」項目では79.4%と目標値を下回った。様々な表現方法を体験させながら学習を進め、伝え合うことによる自信を実感させることで、自信をつけさせていくようにしたい。	B	わずかに目標値に到達できていない状況で、本来は評価3でもよいと思う。	
豊かな心	2	○振り返る力を基盤とし、自己決定する力を身に付け、自己肯定感を高めている。	○自己を見つめ振り返る力を付け、現状を踏まえた自己目標をもつことができる。 ○課題に対する自己決定力を高め、自己肯定感を高める。	①教師力による学習規律の徹底 ・チャイムであいさつ ・整った学習環境 ②積極的な生徒指導 ・事実を正しく振り返り、失敗を学びへと導く指導 ・「聞かせる」前に「聞くこと」を基本とする指導	★自己肯定感に係る児童アンケート	90%	90.0%	88.30%	98.1%	2	自己肯定感に係る児童アンケートの結果は、目標をほぼ達成したが、前回のアンケート結果よりも下がった。学校での取組に加え、保護者へ働きかけられることも不可欠であると考える。日ごろから、肯定的評価を行う機会を意識して全体で教育活動を行う。	B	わずかに目標値に到達できていない状況であるので今後も取組を進めて欲しい。	
					★教職員アンケート	80%	95.4%	100%	125.0%	4	教職員アンケートの結果から、学習規律の徹底を図ることや、積極的な生徒指導を心がけていることがうかがえる。生徒指導上の課題はまだあるが、今後も全教職員が、情報を共有し、一丸となって取り組んでいきたい。	A	今後も教職員一丸となって教育を進めて欲しい。	
健やかな体	3	◎健康でバランスの取れた体づくり	○学年重点項目を6年間でできるようにする。 ○基本的な生活習慣の定着を図る。	・朝の会や体育の時間等を活用して、年間を通して継続的に取り組む。	★重点目標の達成率	80%	92.0%	93.4	116.7%	4	体育の時間等を通して、どの学年でも継続的に取り組むことによって、多くの児童が「学年重点項目」を達成することができた。来年度は、各学年重点目標を精査し、発展的な項目へと改善していく。	A	今後も教職員一丸となって教育を進めて欲しい。	夏休み過ぎた後の後期が課題ではないかと思われる。 夏休み以降の対策をさらに進めて欲しい。
				・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムの定着を図り、定期的に「上小っ子の生活カード」をもとに指導する。	★「早寝・早起き・朝ごはん」の定着率	85%	86.0%	84.00%	97.6%	2	1月に実施した「上小っ子の生活カード」での結果が、84%と目標値を若干下回る結果となった。一部の児童で、特に「早寝」に関して課題がみられるため、家庭とも連携を図りながら、粘り強く個別・集団指導を継続していく。	B		
信頼される学校	4	◎校長を中心とした学校経営を行い、地域に信頼され、地域に貢献する学校づくりを推進する。	○児童とよりよく向き合う時間を確保する。 ○コミュニティ・スクールとして学校運営協議会の充実を図る。	・組織的な業務改善と、教職員のやりがいの向上 ・報連相の徹底と地域保護者への迅速な対応 ・タイムリーな学校だより発行、ホームページ更新 ・運営協議会を活用し双方向の意見を共有	★教職員業務改善に係るアンケート「子供と向き合う時間」がこれまでより増えている	90%	100%	100%	111%	4	「子供と向き合える時間が確保されている」「探究心をもち、学び続けている」「協力して課題に取り組んでいる」に対してどれも肯定的評価が100%であった。今年度、行事の見直し、ICTによる業務の効率化を図ったこと、事案に対して報連相を迅速に行い、全体で情報共有、対応を行うことを意識したことが、結果につながったと考える。	A	今後も教職員一丸となって教育を進めて欲しい。	
				★学校だより発行、ホームページ更新	月1回 月2回 以上	100%	100%	111%	4	コミュニティスクール推進員を中心に、地域との連携を深める学習活動を実施した。その様子を学校だよりやホームページで発信し、理解を深めるように心掛けた。コミュニティスクールの周知と理解が広がるよう児童、保護者、地域が一緒に活動することを実施していきたい。	A	今後も学校と保護者と地域と一体になって子供たちをみていきたい。		

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成
 3...目標どおりに達成
 2...目標をやや下回って達成
 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
 A...とても適切である
 B...概ね適切である
 C...あまり適切でない
 D...全く適切でない